

高齢化社会と地域福祉(13)

——日韓高齢者生活意識比較調査2007——

高崎 義幸・日隈 健壬

(受付 2007年10月9日)

目 次

- I. 研究の背景と目的
- II. 調査概要および調査地域の概要
 - 1) 調査概要
 - 2) 調査地域の概要
- III. 調査地域の高齢者福祉への政策と対応
- IV. アンケート調査単純集計結果
- V. 日韓高齢者生活意識構造比較
- VI. まとめと今後の課題

I. 研究の背景と目的

高齢化社会から高齢社会の到来を迎えて、たとえ身体的機能や能力が衰えても高齢者が自立、安定し健康的な生活を過ごすことは、高齢者自身の願いであると同時に、社会の願いでもある。急速な高齢化率の上昇は高齢者医療・福祉等にかかる費用を増加させ、個人の負担のみならず国や地方自治体の財源を圧迫することになるからである。

そのような中、広島修道大学人文学部社会学日隈研究室では、「寝たきり」などではなく「自立」して健康的な生活を過ごすことができるという高齢者の「健康寿命」にスポットをあて、これを支えている社会的活動や生きがいなど生活安定度の検証を行うための要素（因）の発見を目的とし、調査研究している。

本調査は、上記研究室が1999年6月から継続的に行っている「高齢化社会と地域福祉の日韓比較調査研究」の中で、2000年に行われた「日韓高齢

者意識比較調査」(日隈他,『加齢に生きる人たち—自立・安定そして生きがい日韓比較調査研究—』,2003を参照)から,その後の変化を探るための調査である。前回調査から7年が経過し,日韓両国の調査地ともにさらに高齢化と人口減少が進んだ。また,日本の場合それに加えて地方自治体の合併も経験した。これらのことが地域の構成員である高齢者の意識にどのような変化を生じさせたのかを検証することにする。

日本と同様,間もなく介護保険(韓国名は老人長期療養保険)がスタートし,合わせて行政の広域合併も実行されようとしている韓国にとって日本の経験から学ぶものは少なくない。

II. 調査概要および調査地域の概要

1) 調査概要

調査主体は,広島修道大学人文学部社会学日隈研究室を事務局とする「日韓高齢者意識比較研究会」,NPO 法人日韓(韓日)農業・農村文化研究所である。

日本では2006年8月から10月にかけて,北広島町(旧芸北町)内の「ホリスティックセンター」,社会福祉協議会「仙水園」,特別養護老人ホーム「やまゆり」,「芸北文化ランド」,「芸北町町民文化ホール」の協力を得て,調査票を用いた聞き取り調査,及び直接訪問聞き取り調査を行った。具体的には,自記式アンケート調査,また一人では調査票を読むことや自分で記入することが難しい回答者に関しては調査員がアンケート用紙の設問順に直接聞き取り調査を行った。また町内の機関にアンケート用紙を配布し,その機関に訪問した65歳以上の人に職員が用紙を配布し,調査票記入後,回収をした。これらに併せて,集落単位で家を訪問し,直接聞き取り調査も行い,合計328名から有効回答を得ることができた。

韓国では2007年2月から4月にかけて,全羅南道靈岩郡の靈岩邑,都浦面,新北面,鶴山面で地元農業協同組合等の協力を得て,調査票を用いた聞き取り調査を行った。具体的には,(高齢者が集まって各種行事及び行政

連絡等に利用する集会所) 敬老堂や家庭を訪問し調査をした。これに合わせて農協に訪れた人に対し、調査票の設問順に聞き取り調査をし回収し、101名から有効回答を得た。

2) 調査地域の概要

(1) 広島県山県郡北広島町(旧芸北町)の概要

本研究の調査地域である旧芸北町は、2005年2月に旧大朝町、旧千代田町、旧豊平町と広域合併し、北広島町と町名を変更した。旧芸北町は、旧大朝町、旧千代田町、旧豊平町からなる現北広島町と旧加計町、旧筒賀村、旧戸河内町からなる現安芸大田町を合わせた山県郡に属し通称、西中国山地と呼ばれる広域行政区の一つである。

旧芸北町は、1,000 m 前後の雲月山や阿佐山などの山々が起伏し、高原性の地形で積雪量も多く、豪雪地帯の指定も受けている。農閑期の冬の産業の中心になる本格的なスキー場には、かつて最盛期には年間100万人を超えるスキー客が中四国、九州などからも訪れ、そのための民宿も数多くあった。伝統的には、農業や林業といった第1次産業などが主な産業であったが、近年では第3次産業、とくにサービス業や飲食店、小売業といったものが多くなっている。また、4～11月の間には、青空市場が各地域で開かれ、観光農園や市民農園なども定着している。

旧芸北町の高齢化率は32.7%であるが、この数値は、全国比率21.0%、県21.7%を大幅に上回るものである(2007年3月31日現在)。山県郡一帯の労働力の動態をみると、大正9年と平成2年の65歳以上1人当たり15～64歳人口比率は、大正9年で7.1人、つまり7.1人で1人の65歳以上人口を支えていたものが、平成2年では2.4人で1人の65歳以上人口を養うことになっている。倍率にすると、70年間で約3分の1に減少していることになる。高齢化と労働力動態からみれば、農山村地域は明らかに少子高齢化によって社会的活力を失い、その経済的自立だけでなく、社会的にも地域は大きな社会・経済的問題をかかえている。具体的に、各自治体の財政

力の推移をみると、この山県圏域で最も弱い旧筒賀村は全県を100とすると、昭和60年で29.4であったものが、平成6年では、19.0にまで落ちている。また、ひとりの過疎地の自治体のところを3割自治と呼んでいたが、山県郡では、旧大朝町が28.5、旧芸北町が29.19、とすでに3割を切っているのが実態である。

中でも、平成10年度(9~10月)の調査(標本数812人、回収593人、回収率72.2%)における数値をみると、「ひとり暮らし」老人数が125人と大幅に増え、「老人(2人)夫婦」世帯317人。さらに、「寝たきり」老人になると245人、うち芸北町の高齢者健康状態調査(平成4~10年)によると「準寝たきり」ランクでは、Aに付されている人は29人(~38人)、「寝たきり」でもBランクは10人(~21人)、「寝たきり」でもCランクの人は14人(~17人)とそれぞれ増加している。こうした数字からみるかぎり、「寝たきり」老人予備軍は多いと察せられる。さらに、在宅認知症老人のうち要介護者数は、7.0人となっている。現実には町内在宅認知症老人は45.9人、在宅、病院、施設を含めると61.1人にも及んでいる。旧芸北町が位置する山県郡の平均在宅老人比率(平成9年)は33.4%。広島県下では北部に位置する双三郡、比婆郡と共に高い高齢化率を示している。以下、山県郡下の在宅老人の実態は(平成9年)、太田川流域の中心部の旧加計町が31.5%、旧筒賀村35.3%、旧戸河内町34.7%、旧豊平町33.4%、旧芸北町31.2%、旧大朝町29.9%、旧千代田町24.1%となっている。

(2) 韓国全南靈岩郡の概要

靈岩郡は韓国全羅南道の西南部に位置し、北側には全南地方の文化・教育の中心である光州広域市(140万人)があり、西側には港町、造船の町として有名な木浦市(25万人)と境を接している。靈岩郡庁がある靈岩邑から両都市へは時間距離にして1時間圏域である。靈岩郡は1914年に行政区域が11面に分割された。1979年には靈岩面が靈岩邑に、2003年には三湖面が三湖邑に昇格し2邑9面(靈岩邑・三湖邑・徳津面・金井面・新北面・始終面・都浦面・郡西面・西湖面・鶴山面・美岩面)になった。靈岩郡は

総人口62,857人(男31,708人/女31,149人)、65歳以上高齢者人口は11,296人で、高齢化率は18.0%である。これは全国平均の9.1%を大きく上回っている(2005年)。

邑・面別人口動態をみると、木浦市と境を接し新興産業開発地域の三湖邑だけは人口が増加し高齢化率も一桁台(6.0%)であるが、その他の邑・面では人口減少と高齢化が進んでいる。高齢化率は金井面の31.6%が最高である(2005年)。

霊岩郡総面積 565,886 km² のうち耕地面積は38.7% (218,959 km²) で、その内訳は水田が28.0% (158,252 km²)、田が10.7% (60,707 km²) である。農家数は9848戸、霊岩郡の総人口に占める農家人口は38.4% (24,123人) となっており、純農村地帯である(2007年度霊岩郡統計年報)。

景勝地としては、月出山国立公園(809m)を擁し、多くの登山者が訪れている。文化遺産としては古い街並みや文化遺跡が残り、陶器製作も行われている鳩林村、1千年以上の歴史を持つといわれている道岬寺、日本に文字を伝えたといわれている王仁博士の遺蹟などがある。2005年の霊岩郡全体の年間観光客数は2,750,507人となっている。

Ⅲ. 調査地域の高齢者福祉への政策と対応

(1) 広島県山県郡北広島町(旧芸北町)の高齢者福祉の政策と対応

国の「ゴールドプラン」を受けて市町村に課せられた高齢者福祉計画として、旧芸北町では『芸北すこやかグリーンプラン－芸北町老人福祉計画(平成6年度)』が策定された。この計画での基本理念は「誰でも人間として尊重される社会」「相互扶助の推進に基づく社会」「地域で住み続けられる社会」の3つが目標とされている。平成8年度には『芸北町第3次長期総合計画－ときめきプラン21』によって高齢者福祉の充実が策定され、①在宅福祉の充実、②施設福祉の充実、③生きがい対策の充実、④高齢者の健康づくりの推進、⑤高齢者にやさしい居住環境の整備の5つが目標とされている。

また、地域福祉の推進においては、福祉意識の普及啓発、地域福祉活動の充実、福祉のまちづくりの指針が示されている。とくに高齢者福祉の分野では、生涯健康づくりの推進に力をいれ、保健、予防の充実が計画され保健・医療・福祉の一体化が目標とされている。

さらに、平成12年には「ゴールドプラン」を大幅に修正して成立したといわれる「新ゴールドプラン（高齢者保健福祉推進十か年戦略）」のもとに、『芸北すこやか生活プラン—芸北町新高齢者保健福祉計画・芸北町介護保険事業計画』が作成されている。この中で、具体的に高齢者の保健・医療・福祉に対する需要に適正に対応するための体制整備が図られている。この芸北町の新高齢者保健福祉計画での基本理念は、①介護が必要な高齢者への自立支援、②健康で若々しく暮らせる環境づくり、③地域福祉の推進の3つを基本理念とし、介護サービスの基盤整備及び質的向上と認知症高齢者支援の推進、介護予防、社会参加の推進、また福祉のまちづくりを目指し、高齢者の支援サービスだけでなく、高齢者自身の自主性の促進も計画の目標とされている。

旧芸北町の福祉事業としては現在、11の医療施設（個人開業医も含める）がある。そしてこの中で「保健」「医療」「福祉」が一体となり、包括的に地域医療が行われているのが「芸北ホリスティックセンター」である。この施設では、「医療部門」では内科・小児科・歯科・眼科が付設され、「福祉部門」では食事の提供、日常機能訓練などのデイサービス及び成人病をはじめとする各種の定期検診、健康診断が行われている。そして施設の裏手には、グランドゴルフ場があり、グランドゴルフや料理教室、手芸や折り紙などの高齢者の認知症予防や趣味、娯楽など啓発事業も実施され、地域住民の交流の場とする地域生活支援体制を確立している。

このような取り組みを通して、旧芸北町は、過疎地における地域保健医療のモデルとして全国的にも高い評価を受けてきた。

(2) 韓国全南霊岩郡の高齢者福祉への政策と対応

霊岩郡の福祉事業としては、敬老年金、老人交通費手当での支給、敬老優待制度、高齢者職場創出事業、敬老食堂無料給食を実施している。

敬老年金は、社会的条件の変化等で経済的に困難な高齢者を対象に直接的、実質的な所得保障恩恵を付与することによって老後の生活の安定を図り、国民年金制度が実施されても年齢上の理由で国民年金の恩恵を受けることができない高齢者に敬老年金を支給している。支給対象者及び支給基準は、国民基礎生活保障受給者は65歳から79歳までが月45万ウォン、80歳以上が月50万ウォン、低所得高齢者が月35万ウォン、夫婦世帯の場合は月30,630ウォンである。交通費手当では、申請者に対し月にバスの乗車券12枚を支給している。敬老優待制度は、博物館の入場料など割引がある。

医療機関は、総合病院1棟、個人医院20棟、韓方医院9棟、歯科医院8棟、保健所1ヶ所、保健地所10ヶ所、保健診療所13ヶ所となっている。その他、霊岩邑に老人福祉会館1棟があり、高齢者福祉施設は、無料老人福祉施設の社会福祉法人小路院（定員50名、現46名）がある。

住民のコミュニティ施設として集落ごとに設置されている敬老堂は、霊岩郡全体で346ヶ所、利用人員は8,909人である（2005年）。

さらに2007年からは、84歳以上の高齢者へ長寿手当の開始、三湖邑へ総合社会福祉館の新築、老人療養施設2ヶ所の拡充、邑・面を訪問し行うシルバー教室、老人生涯教育を実施し、一人暮らしの高齢者300名に対し、安否調査事業を展開することが計画されている（霊岩郡、2007年2月「東北ア経済・観光の中核一民選4期によって変化した施策を中心として」）。

IV. アンケート調査結果

1. 基本的属性

(1) 年齢・性別

日本の場合、65歳から74歳までの「前期高齢者」は41.7%（137人）、75歳以上の「後期高齢者」は57.6%（189人）である。それぞれの比率を旧芸

(1) 年齢・性別

人 (%)

| | 日 本 | | | 韓 国 | | |
|--------|------------|------------|-------------|-----------|-----------|-------------|
| | 男 性 | 女 性 | 合 計 | 男 性 | 女 性 | 合 計 |
| 65-69歳 | 27 (8.2%) | 22 (6.7%) | 49 (14.9%) | 13(12.9%) | 9 (8.9%) | 22 (21.8%) |
| 70-74歳 | 49(14.9%) | 39(11.9%) | 88 (26.8%) | 20(19.8%) | 11(10.9%) | 31 (30.7%) |
| 75-79歳 | 38(11.6%) | 46(14.0%) | 84 (25.6%) | 11(10.9%) | 13(12.9%) | 24 (23.8%) |
| 80-84歳 | 27 (8.2%) | 38(11.6%) | 65 (19.8%) | 4 (4.0%) | 13(12.9%) | 17 (16.8%) |
| 85-89歳 | 11 (3.4%) | 20 (6.1%) | 31 (9.5%) | 2 (2.0%) | 4 (4.0%) | 6 (5.9%) |
| 90-94歳 | 2 (0.6%) | 7 (2.1%) | 9 (2.7%) | 1 (1.0%) | 0 (0.0%) | 1 (1.0%) |
| 無回答 | 1 (0.3%) | 1 (0.3%) | 2 (0.6%) | - (-) | - (-) | - (-) |
| 合 計 | 155(47.3%) | 132(40.2%) | 328(100.0%) | 51(50.5%) | 50(49.5%) | 101(100.0%) |
| 平均年齢 | 75.5歳 | 77.3歳 | 76.4歳 | 73.2歳 | 75.8歳 | 74.5歳 |
| 最少年齢 | 65歳 | 65歳 | 65歳 | 65歳 | 65歳 | 65歳 |
| 最高年齢 | 92歳 | 93歳 | 93歳 | 91歳 | 89歳 | 91歳 |

北町の国勢調査(2000)と比べてみると、「前期高齢者」50.5%、「後期高齢者」49.5%となっており、今回の調査は、旧芸北町の統計と比べて「後期高齢者」の方がやや多くなっている。

韓国の場合、65歳から74歳までの「前期高齢者」は52.5% (53人)、75歳以上の「後期高齢者」は47.5% (48人)である。日本に比べて前期高齢者の比率が若干多かった。

日本の場合、「一人暮らし」18.3% (60人)と、「夫婦のみ」35.7% (117人)とを合わせて54%が一世帯で、「同居世帯」は40.2% (132人)となっている。

韓国の場合、「一人暮らし」23.8% (24人)と、「夫婦のみ」58.4% (59人)とを合わせて82.2%が一世帯で、「同居世帯」は16.8% (17人)となっており、「同居世帯」の比率は韓国に比べて日本の方が高い結果になった。ちなみに、一世帯当たりの平均人口は旧芸北町が2.85人 (2000年)、霊岩郡が2.6人となっている (2005年)。

2. 日常生活動作能力 (ADL)

ADL を測る質問項目として①買い物②公共交通③郵便局等での用事の3つの質問項目を用意し、それぞれ「よくできる」から「全くできない」までの5段階で回答してもらった。

(1) 買い物 (自分一人で食料や日用品の買い物ができますか。)

『買い物』に関する質問では、日韓共に「よくできる」と「できる」と答えた人を合わせると約8割強の人が自分一人でできると答えている。

(2) 公共交通 (自分一人でバスや電車などの公共交通に乗れますか。)

『公共交通』に関する質問では、日韓共に「よくできる」と「できる」とを合わせると約8割の人が自分一人でできると答えている。

(3) 郵便局などでの用事 (自分一人で銀行や郵便局で用を済ませることができますか。)

『郵便局等での用事』に関する質問では、銀行などでの金銭管理ができるかどうかを意味するもので、芸北町及び霊岩郡では銀行がないため、ほとんどの人が農協や郵便局を利用している。そこでの対応はATMの機械などではなく、窓口での対応であることに留意しなければならない。日本の場合86.9% (285人) が、韓国の場合82.2% (83人) が自分一人で「できる」と答えており、日韓共にほぼ同じような比率となった。

日韓共にADLは2000年度調査結果と比べて大差がなかった。

3. 身体的健康度

(1) 主観的健康感 (あなたは自分が健康であると思いますか。)

『自分が健康であると思うか』という質問の回答は主観的ではあるが、健康度を測る尺度として代用すると、日本の場合、「自分は健康であると思う」が29.6% (97人)、「日常生活に支障はないが、気になるところがある」が52.7% (173人) であり、「健康でない (日常生活に支障がある)」が15.2% (50人) であった。

韓国の場合、「自分は健康であると思う」が23.8% (24人)、「日常生活に

支障はないが、気になるところがある」が33.7% (34人), 「健康でない (日常生活に支障がある)」が42.6% (43人) であり, 日本に比べて「健康でない (日常生活に支障がある)」と答えた人の比率が27.4%高かった。

2000年度調査と比べて日本は大差ないが, 韓国の場合「自分は健康である」が35.5%から23.8%に低下し, 「健康でない」は37.6%から42.6%と上昇している。

(2) 自覚症状 (自覚症状はありますか。〔複数回答〕)

健康障害に対する『自覚症状があるか』という質問では, 日本の場合, 自覚症状は「特にない」は7%であった。自覚症状を持っている人の具体的な症状としては, 「ひざが痛い」(39.0%) が一番多く, 次いで「背中や腰が痛い」(34.1%), 「疲れやすい」(27.4%), 「高血圧」(21.3%), 「耳が聞こえにくい」(19.8%), 「目がかすむ」(11.9%), 「手足がしびれる」(7.9%), 「頭が痛い」(7.9%), 「胃がもたれる」(6.4%), 「動悸・息切れ」(6.1%), 「せき・たん」(5.5%) と続いている。

韓国の場合, 自覚症状は「特にない」は3%であった。具体的な症状としては, 「目がかすむ」(68.3%) が一番多く, 次いで, 「ひざが痛い」(54.5%), 「背中や腰が痛い」(53.5%), 「耳が聞こえにくい」(32.7%), 「手足がしびれる」(31.7%), 「疲れやすい」(29.7%), 「高血圧」(25.7%), 「胃がもたれる」(21.8%), 「頭が重い」(18.8%), 「動悸・息切れ」(18.8%), 「せき・たん」(16.8%) と続いている。

韓国の場合, 日本に比べて, 「目がかすむ」「耳が聞こえにくい」「手足がしびれる」「胃がもたれる」「動悸・息切れ」「せき・たん」と具体的症状を訴える人が圧倒的に多い。しかし2000年と比べると日韓共に結果に変化は見られなかった。

(3) 歯の状態 (歯が悪いですか。)

『歯の状態』について日本の場合, 41.8% (137人) が「問題ない」と答えている。また「少し気になる程度」と答えた人は20.1% (66人) で, それに「やや悪い」22% (72人) と「すごく悪い」11% (36人) を合わせる

と53.1% (174人) が歯の状態が悪いと答えている。

韓国の場合、「問題ない」は9.9%と低くなっている。また「少し気になる程度」6.9% (7人) と、「やや悪い」33.7% (34人)、「すごく悪い」49.5% (50人) を合わせると88.2%の人が歯の状態が悪いと答えている。

韓国の方が歯の状態が悪い人の比率がかなり多くなっている。

(4) 病院に行く頻度と理由(病院へ行く回数はどれくらいですか。また行く理由は何ですか。)

『病院へ行く頻度』は日本の場合、「月に数回程度」行くが49.7% (163人) と最も多く、次いで「年に数回程度」行くが21.6% (71人)、「週に1回程度」行くが7% (23人)、「ほとんど行かない」が13.1% (43人)、「ほぼ毎日」行くが2.7% (9人) となった。

続いて関連する質問として『病院へ行く理由』を尋ねたところ、「薬をもらうため」が35.7% (117人) と最も多く、次いで「定期検診」が22.3% (73人)、「治療のため」が17.7% (58人) であった。

韓国の場合、「月に数回程度」行くが43.6% (44人) と最も多く、次いで「週に1回程度」行くが28.7% (29人)、「ほとんど行かない」が14.9% (15人)、「年に数回程度」行く、「ほぼ毎日」行くがそれぞれ5.9% (6人) であった。『病院へ行く理由』は、「治療のため」が30.7% (31人) と最も多く、次いで「薬をもらうため」が21.8% (22人) であった。

日本に比べて「ほぼ毎日」、「週に一回」行くとを合わせ病院によく行く人の比率が高かった。韓国では保健所で病院と同じ診療を受けることができ、その費用も病院の3分の1から4分の1程度ということもあって、農村部では保健所を利用している人が多い。

(5) 薬の量(どのくらい薬を飲んでいますか。)

『日常的に飲んでいる薬の量』を測る質問では日本の場合、65.5% (215人) が薬を日常的に飲んでいる。一方で、「飲まない」と答えた人は10.1% (33人) であり、「時々飲む」8.8% (29人) と「あまり飲まない」12.8% (42人) を合わせると31.7%の人が、薬を常用せず、何らかの症状が出た時

のみに投与している。

韓国の場合、69.3% (70人) が薬を日常的に飲んでいる。「飲まない」と答えた人は9.9% (10人) であり、「時々飲む」15.8% (16人) と「あまり飲まない」4.0% (4人) 合わせると29.7%の人が、薬を常用せず、何らかの症状が出た時のみに投与している。

『日常的に飲んでいる薬の量』による日韓の有意な差は見られなかった。

4. 普段の生活行動

(1) 運動量 (週にどれくらい運動しますか)

『週にどれくらい運動するか』という質問では日本の場合、「毎日必ずする」が28.7% (94人)、「2日に1回くらいする」が7.9% (26人) と続いております、合わせて36.6%の人が、毎日または1週間のうち、定期的に運動をしている。また、「時々気がついたらする」は30.2% (99人) であり、定期的に運動をしている人と合わせて7割弱の人が、運動することを意識している。

韓国の場合、「毎日必ずする」が40.6% (41人)、「2日に1回くらいする」が7.9% (8人) と続いております、合わせて48.5%の人は、毎日または1週間のうち、定期的に運動をしている。また、「時々気がついたらする」は20.8% (21人) であり、定期的に運動をしている人と合わせて約7割の人が、運動することを意識している。ちなみに、韓国の場合、運動内容は「散歩」が一番多く、次いで「ゲートボール」であった。

日本に比べて韓国のほうが「毎日必ずする」の比率は高くなったが、運動することを意識している人の比率は日韓共に約7割であった。

(2) 目標 (何か目標を立ててやることがありますか。)

『目標』に関する質問では、日本の場合、「すごくある」11.3% (37人)、「ある」16.8% (55人) と「少しある」26.8% (88人) とを合わせて54.9% (180人) が何らかの目標をたてて生活している。

韓国の場合、「すごくある」2.0% (2人)、「ある」5.9% (6人)、「少し

ある」32.7% (33人) とを合わせて40.6% (41人) が何らかの目標をたてて生活している。「あまりない」と「全くない」はそれぞれ29.7% (30人) で合わせて59.4% (60人) であった。

(3) 新聞による情報入手 (毎日新聞を読みますか。)

『毎日、新聞を読みますか』という質問では、日本の場合、「毎日必ず読む」が57.9% (190人) であり、最も多かった。「二日に一回くらい」が2.7% (9人)、「時々なら読む」が15.5% (51人) であった。約2割の人が新聞による情報入手が乏しかった。

韓国の場合、逆に「全く読まない」が58.4% (59人) で最も多かった。「ほとんど読まない」12.9% (13人) とを合わせると、約7割の人が新聞による情報入手が乏しいことがわかった。「時々読む」が17.8% (18人)、「二日に一回くらい」が2.0% (2人) であった。

日本に比べて、韓国が新聞を読まない比率が高くなっていることに関して、新聞宅配システムの普及と利用率、老眼鏡の普及率、識字率の差が指摘されている (日隈他、『加齢に生きる人たち』, 2003, pp 54-55)。

韓国の場合、性別による差が見られ「読まない」人のうちの68%が女性であった ($r=0.600$, $\alpha<0.05$)。

5. 経済的状況

(1) 年金 (年金をもらっていますか。)

『年金をもらっているか』という質問では、日本の場合、無回答者の2名を除いては、ほぼ全員 (99.4%, 326人) が年金をもらって生活をしている。

韓国の場合、「もらっている」は48.5% (49人) で、「もらっていない」は49.5% (50人) であった。年金の種類は、「国民年金」61.2% (30人)、「戦傷病者恩給」が10.2% (5人)「敬老年金」が4.1% (2人)、「共済年金」,「退職年金」がそれぞれ2.0% (1人) であった。日本に比べて年金受給率はまだ低い。

- (2) 子からのサポート（子どもから経済的にサポートしてもらっていますか。）

『子供から経済的にサポートしてもらっているか』という質問では、日本の場合、「定期的にもらっている」が9.8% (32人)、「ときどきもらう」が14.9% (49人)であり、合わせて24.7%が子供からの経済サポートを受けている。一方で69.5% (228人) は子どもから経済的にサポートしてもらっておらず、中には子供から経済的サポートを受けるというよりは、逆に子供への仕送りや孫への小遣いを送っているという人もいた。

韓国の場合、「もらっている」が60.4% (61人)、「もらっていない」が38.9% (39人)となっている。聞き取り調査によると、「年に3～4回、一回につき5万～10万ウォンもらっている」というのが一番多く、名節のときや誕生日にもらっているという人もいた。

年金受給率の低さを子どもからの経済サポートで補っていると推測できる。

6. 道具的サポート

- (1) 車椅子への抵抗感（自分が車いすに乗る場合、抵抗感がありますか。）

『車椅子への抵抗感』に関する質問では、日本の場合、36.5% (120人)が何らかの抵抗感をもっている。一方で、「全くない」が20.1% (66人)、「あまりない」が31.1% (102人)であり、合わせて51.2%であった。

韓国の場合、65.4% (67人)が何らかの抵抗感をもっており、「全くない」23.8% (24人)、「あまりない」7.9% (8人)とを合わせて31.7%であった。年齢・性別による有意な差は見られなかった。

韓国の方が日本に比べて車いすへ乗ることへの抵抗感を感じているようである。

(2) 家電製品理解度（新しい家電製品などの操作が分からなくて困ったことがありますか。）

家電製品は日々と新しく開発・販売され、そしてその高度になる機械の操作方法を新たに習得しなければならないとなっている。その家電製品操作をまた新たに習得しなければならないということが、高齢者を困らせているのではないかという意図で、『新しい家電製品など操作が分からなくて困ったことがあるか』という質問をした。

その結果、新しい家電製品の操作が分からなくて困った経験がある人は日本は62.4%（205人）、韓国は75.2%（76人）となり、家電製品の操作に困ったことがある人が多い。

(3) バリアフリー（住宅においてバリアフリーなどの工夫することを考えていますか。）

『住宅において階段に手すりをつけたり、段差を無くしたりというバリアフリーなど、老後のために工夫することを考えているか』という質問に対して、日本の場合、「あまり考えていない」が31.7%（104人）で最も多かった。次いで、「すでにしている」が25.6%（84人）であった。「今後する予定がある」6.4%（21人）と「したい」22.9%（75人）を合わせると29.3%（96人）が住宅においての工夫を考えている。「全く考えていない」9.5%（31人）、「あまり考えていない」31.7%（104人）を合わせると41.2%（135人）であった。

韓国の場合、「すでにしている」が28.7%（29人）で最も多かった。「今後する予定がある」14.9%（15人）と「したい」24.8%（25人）を合わせると39.7%（40人）が住宅においての工夫を考えている。「全く考えていない」6.9%（7人）、「あまり考えていない」24.8%（25人）を合わせると31.7%（32人）であった。

老後の生活のために住宅を改築・改造しようという願望は日本に比べて韓国のほうが高かった。

7. 家族的関係

(1) 子や孫の訪問 (子どもや孫がよく自分を訪ねてきてくれますか。)

『子どもや孫がよく自分を訪ねにきてくれるか』という質問では、日本の場合、64.7% (212人) が普段子供や孫の訪問があると答えている。「少しだけ」は20.7% (68人) であった。一方で「全くない」2.4% (8人) と「あまりない」8.5% (28人) とを合わせると10.9% (36人) であった。

韓国の場合、「少しだけ」が40.6% (41人) と最も多かった。「よく」28.7% (29人) と「やや」13.9% (14人) とを合わせて42.6% (43人) が普段子供や孫の訪問があると答えている。一方で「全くない」1.0% (1人), 「あまりない」14.9% (15人) とを合わせると15.9% (16人) であった。

日本に比べて、普段子どもや孫がしょっちゅう訪ねてくる比率は低くなっているが、聞き取り調査によると、普段は自分を訪ねてくることはないが、名節のときや自分の誕生日のときに戻ってくる、というのが多かった。

(2) 入院時の面会 (もし自分が入院したり施設に入ったりしたとき、家族は面会にしょっちゅう来てくれると思う。)

『入院時の面会』に関する質問では、日本の場合、73.5% (241人) が「来てくれる」と感じている。「少しだけ来てくれる」は18.9% (62人) であった。

韓国の場合、「少しだけ来てくれる」が31.7% (32人) で最も多かった。「来てくれる」と感じているのは56.5% (57人) で、約1割の人が、自分が入院したり、施設に入ったとき、家族の訪問がないと感じている。

日本の方が韓国に比べて若干「来てくれる」と感じている人の比率が高かった。

(3) 家族の会話 (家族での会話が多いですか。)

『家族での会話が多いか』という質問に対して、日本の場合、「すごく」32.9% (108人) と「やや」28% (92人) を合わせて60.9%であり、「少し

だけ」は、22.6% (74人)であった。「全くない」1.8% (6人)と「あまりない」11% (36人)と合わせて12.8% (42人)が家族との会話がいない状態で暮らしている。

韓国の場合、「すごく」32.7% (108人)と「やや」9.9% (10人)を合わせて42.5% (118人)であり、「少しだけ」は、37.6% (38人)であった。「全くない」5% (5人)と「あまりない」13.9% (14人)と合わせて18.9% (19人)が家族との会話がいない状態で暮らしており、日本の方が家族の会話が多いと感じる比率が若干高いという結果になった。

(4) 親族の悩み(家族や親戚のことで悩み事がありますか。)

『親族の悩み』に関する質問では、日本の場合、なんらかの悩みを抱えている人は、46.6% (153人)であった。また「あまりない」35.1% (115人)と「全くない」15.2% (50人)とを合わせて50.3%であった。

韓国の場合、なんらかの悩みを抱えている人は、61.3% (62人)であった。また「あまりない」26.7% (27人)と「全くない」11.9% (12人)とを合わせて38.6%であった。

韓国の方が家族や親族のことでなんらかの悩みを抱えている人の比率が高かった。

8. 精神的支え

(1) 気をかけてくれる人の存在(自分のこと(安否)を常に気遣ってくれる人がいる。)

『気をかけてくれる人の存在』に関する質問では、「いる」が日本89.9% (295人)、韓国89.1% (90人)となり、両国とも約9割が自分の安否を気遣ってくれる人がいると答えた。「いない」は日本5.8% (19人)、韓国5.9% (6人)となった。

(2) 相談相手(悩みを打ち明けたり相談できる人がいる。)

『相談相手の有無』に関する質問では、相談相手が「いる」は日本82% (269人)、韓国80.2% (81人)と、日韓ともに8割強の人が相談相手を持つ

ており、「いない」は日本14% (46人)、韓国17.8% (19人)であった。

9. 高齢者モラル

- (1) 介護必要時（もしあなたが介護が必要になったとき、どうするのがよいと思いますか。）

『介護必要時』に関する質問では、「施設に入る」が日本は27.4% (90人)、韓国は29.7% (30人)で、「自宅でホームヘルパーが世話してくれる」は日本が12.5% (41人)、韓国が5% (5人)であった。「施設に入る」と「自宅でヘルパーが世話をしてくれる」を合わせると、日本は40.1%、韓国は30.2%が子供への依存心が薄いと判断できる。一方で、「子どもと同居する」は日本が26.5% (87人)、韓国が27.7% (28人)で、「同居ではないが、子どもが世話をしてくれる」は日本が20.1% (66人)、韓国が30.7% (31人)であった。

韓国の場合、「自宅でヘルパーが世話をする」比率が低くなっているのは、訪問介護システムがあまり充実していないからであると推測できる。

- (2) 配偶者の介護（自分の配偶者に介護が必要になったとき、施設に入れますか。）

『配偶者の介護必要時』に関する質問では、「絶対入れない」は日本が5.5% (18人)、韓国が11.9% (12人)で、「多分入れない」は日本が26.8% (86人)、韓国が19.8% (20人)であった。この二つを合わせた「配偶者を施設に入れたくない」と思っているのは、日韓ともに31.7%であった。一方で、「絶対入れる」は日本が4.0% (13人)、韓国が12.9% (13人)で、「多分入れる」は日本が21.6% (71人)、韓国が18.8% (19人)であり、この二つを合わせた施設入所の意志をもっている人は日本が25.6%、韓国が31.7%であった。

- (3) 延命治療の中止（どの状態になったとき、人工呼吸器などを用いた延命治療の中止を希望しますか。また、それを家族で話あったことがありますか。）

『延命治療の中止』に関する質問では、日本の場合、「意識不明になったとき」が40.5%（133人）と最も多く、次いで「病気が治る見込みがないと判ったとき」が25%（82人）、「口から物が食べられなくなったとき」が6.1%（20人）、「寝たきりになったとき」が5.2%（17人）であった。「その他」には、「苦しむだけとわかったとき」「植物人間になったとき」「脳死状態になったとき」「長期入院となったとき」「延命治療は希望しない」「今はわからない」という回答があった。

韓国の場合、「病気が治る見込みがないと判ったとき」が31.7%（32人）と最も多く、次いで「寝たきりになったとき」が29.7%（30人）、「意識不明になったとき」が18.8%（19人）、「口から物が食べられなくなったとき」が10.9%（11人）であった。

続いて、その『延命治療の話を家族で話し合ったことがあるか』という質問を行った。「ある」は日本が21%（69人）、韓国が9.9%（10人）で、「まだないが、今後したい」は日本が34.8%（114人）、韓国が24.8%（25人）であった。また「ない」は日本が39.9%（131人）、韓国が62.4%（63人）であった。

日本の方が「延命治療の話を家族で話し合ったことがある」「今後したい」という比率が高く、韓国は延命治療の話し合いは必要ないと考えている傾向が見られた。

10. 不安・不満度

- (1) 不安・不満（今の自分に不満・不安がある。）

『今の自分に不満・不安があるか』という質問では、日本は53.1%（174人）、韓国は51.5%（52人）がなんらかの不満・不安を持っており、日韓ともに約5割の人がなんらかの不安や不満を抱えている。

続いて、『その不安・不満はどのようなことか』という質問を行ったところ、日本の場合、「自分の身体のこと」が46% (151人) と最も多く、次いで「自分の生活のこと」が17.4% (57人) で、合わせて71.4%が自分のことで不安・不満をもっている。また「家族の身体のこと」15.5% (51人)、「家族の生活のこと」12.2% (40人) とを合わせて27.7%が家族のことで不安・不満をもっている。「地域のこと」は6.1% (20人) であった。「その他」には、“お金のこと” “家族交流” “高齢化したこと” “自分の人生について” “隣人関係” という回答があった。

韓国の場合、「自分の身体のこと」が42.6% (43人) と最も多く、「自分の生活のこと」17.8% (23人) とを合わせて60.4%が自分のことで不安・不満をもっている。また「家族の身体のこと」22.8% (23人)、「家族の生活のこと」13.9% (14人) とを合わせて36.7%が家族のことで不安や不満をもっている。

V. 日韓高齢者生活意識比較構造

1. 分析指標

前章では単純集計で全体の傾向を整理してきたが、ここでは調査結果をもとに、社会構造の『個人 (高齢者)』、『家族』、『地域社会』の関連性とその相互機能を考察していくこととする。ここでの活用データは前章で分析したデータを活用する。ただし、前章の被調査者には「無回答」が含まれており、「無回答」を0点として算術すると正確さが失われるため、分析項目に関して1つでも項目に「無回答」が含まれている場合は、ここでの分析においては無効とした。その結果、有効票数は日本は $n=201$ 、韓国は $n=74$ となった。

分析には、要因の関係性 (関連性) を把握するために相関関係を利用し、基本的属性を、『年齢』、『性別』、『世帯構成』の3項目とし、それらに対応する指標を下記のとおり9項目に絞った。

- ①日常生活動作能力（ADL）：“ADL（Activities of Daily Living；日常生活動作能力）”を測るものとして、『日用品などの買い物が一人のできるか』、『バスなどの公共交通に一人で乗ることができるか』、『郵便局や農協での用事を一人で済ませることができるか』の3項目とする。ここでは各項目を5段階尺度で測定し、合計点が高いほど日常生活における自分でできるという自立生活能力が高いことを示す。
- ②身体的健康度：ここでは“身体的健康度”として、『健康であると思うか』、『薬を一日どれくらい飲むか』の2項目とする。『健康であると思うか』については各項目を3段階尺度で測定し、『薬を一日どれくらい飲むか』については5段階尺度で測定する。ここでは、合計点が高いほど身体的健康状態が良好であることを示す。
- ③経済的状況：“経済的状況”として、『年金をもらっているか』、『子からのサポートを受けているか』の2項目とする。それぞれ2段階評価（1点；もらっている，0点；もらっていない）とし、合計点が高いほど経済的状況が良好であることを示す。
- ④家族関係：“家族関係”として、『子どもや孫がよく訪ねてきてくれるか』、『もし自分が入院（入所）したとき家族はよく面会に来てくれると思うか』、『家族での会話は多いか』、『（延命治療について）家族で話し合いをしたことがあるか、また今後しようと思うか』の4項目で測定する。『（延命治療について）家族で話し合いをしたことがあるか』では3段階評価、その他は各項目とも5段階尺度で測定し、合計点が高いほど家族関係の親密度が高いことを示す。
- ⑤精神的支え：“精神的支え”を測るものとして、『常に気遣ってくれる人がいるか』、『悩みを打ち明けたり、相談できる人がいるか』、『家族や親戚のことで悩みがあるか』の3項目で測定する。前者2項目は2段階評価（1点；いる，0点；いない），後者1項目は5段階評価で測定する。『家族や親戚の悩み』については「全くない」が得点が高いものとする。ここでは合計点が高いほど、家族だけでなく身近なところでの私的な情

緒面での関係があり、精神的に安定していることを示す。

- ⑥道具的サポート：“道具的サポート”として、『車いすに乗ることに抵抗感があるか』、『新しい家電製品などで操作がわからなくて困ったことがあるか』、『住宅においてバリアフリーなど、工夫を考えているか』の3項目で測定する。ここでは、加齢とともに身体的、精神的障害は個人差があるものの、多少は現われてくるものである。それを補助器具などによってサポートすることであり、合計点が高いほど道具的なサポートを活用しようという意識が高いことを示す。
- ⑦公的サポート：“公的サポート”を測るものとして、『自分に介護が必要になったときどうするのがよいと思うか』、『配偶者に介護が必要になったとき、どうするのがよいと思うか』の2項目で測定する。『自分に介護が必要になったときどうするのがよいと思うか』は3段階評価（3点；施設に入る，2点；自宅でホームヘルパー，1点；子が世話をする），『配偶者に介護が必要になったときどうするのがよいと思うか』は5段階評価で「絶対に入れる」という方が高得点とする。ここでは合計点が高いほど、公的サービスを利用しようという意識が高いことを示す。
- ⑧積極性：“積極性”を測るものとして、『目標を立てているか』、『毎日、新聞を読むか』、『週にどれくらい運動するか』の3項目で測定する。各項目は5段階尺度で測定し、合計点が高いほど自分自身で何かを積極的にしようとする意識が高いことが示されるため、ここでは“積極性”が高いことを指すこととする。
- ⑨自己満足度：“自己満足度”を測るものとして、『自分に不満・不安があるか』の項目を用い、5段階尺度で、不満が大きいほど点数が低くなるように点数化をし、不満・不安や悩みが少ないほど満足度は高いものとする。

2. 相関係数からみた日韓高齢者生活意識構造比較

(1) 基本的属性との相関関係

年齢を縦軸にみると、当然のことかもしれないが日韓とも加齢とともに『日常生活動作能力 (ADL)』『身体的健康』が低下している。韓国のみ加齢とともに『精神的支え』『積極性』の低下がみられた。逆に、加齢と逆相関関係にあるものは日本の場合、『経済的状况』で韓国の場合、『世帯構成』であった。

『年齢』と『経済的状况』との関係を見ると、日本の場合、すべてが年金を受給していたため、年齢が高いほど子供からのサポートを受けていることがわかる。韓国の場合、年金と子どもからの経済サポートは相互補完関係にあり、年齢との相関は見られなかった。

『年齢』と『世帯構成』との関係をみると、韓国の場合、年齢が高いほど同居率が高くなっている。

『性別』を軸にみると、日韓ともに『ADL』と逆相関が見られ、女性の方が日常生活動作能力が低い傾向がみられた。また韓国の場合、『身体的健

相関係数 (基本的属性：日本 (韓国))

| | 年 齢 | 性 別 | 世帯構成 |
|---------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 年齢 | 1.000 (1.000) | | |
| 性別 | 0.077 (0.121) | 1.000 (1.000) | |
| 世帯構成 | 0.006 (0.225) | 0.093 (0.245) | 1.000 (1.000) |
| ADL | -0.273 (-0.480) | -0.210 (-0.372) | -0.049 (-0.334) |
| 身体的健康 | -0.250 (-0.343) | -0.194 (-0.226) | -0.073 (0.101) |
| 経済的状况 | 0.219 (0.065) | 0.153 (-0.022) | 0.084 (-0.069) |
| 家族関係 | 0.127 (-0.042) | 0.028 (-0.435) | 0.097 (0.160) |
| 精神的支え | 0.075 (-0.212) | 0.003 (-0.094) | 0.049 (0.064) |
| 道具的サポート | 0.120 (-0.076) | -0.091 (-0.054) | -0.095 (-0.228) |
| 公的サポート | 0.162 (-0.015) | 0.095 (-0.017) | 0.204 (-0.072) |
| 積極性 | 0.006 (-0.531) | -0.170 (-0.384) | 0.047 (-0.115) |
| 自己満足度 | 0.104 (-0.091) | -0.029 (-0.357) | -0.035 (0.186) |

康』『家族関係』『積極性』『自己満足度』に逆相関が見られ、いずれも女性の方が低い傾向がみられた。

『世帯構成』を軸にみると、日本の場合、同居率が高いほど『公的サポート』を利用しようという意識が高いことがあらわれている。つまり、子や孫に迷惑をかけないように、自分や配偶者に介護が必要になったときには施設に入る（入れる）、もしくは公的サポートを利用する意識が高いことを意味している。韓国の場合、『ADL』『道具的サポート』と逆相関が見られ、同居率が高いほど ADL が高く、また『道具的サポート』を活用する意識が高かった。

(2) その他の項目の相関関係

相関係数（その他項目：日本（韓国）

| | ADL | 身体的健康 | 経済的状況 | 家族関係 | 精神的支え | 道具的サポート | 公的サポート | 積極性 | 自己満足度 |
|---------|--------------------|--------------------|--------------------|------------------|-------------------|-------------------|-------------------|------------------|-------|
| 身体的健康 | 0.267 (0.312) | 1.000 | | | | | | | |
| 経済的状況 | -0.149 (-0.043) | -0.114 (-0.024) | 1.000 | | | | | | |
| 家族関係 | -0.088 (0.377) | 0.043 (0.181) | 0.174 (0.052) | 1.000 | | | | | |
| 精神的支え | 0.182 (0.370) | 0.110 (0.111) | 0.089 (0.160) | 0.266 (0.502) | 1.000 | | | | |
| 道具的サポート | -0.004 (0.220) | -0.041 (-0.068) | -0.099 (0.030) | 0.077 (0.246) | 0.094 (0.240) | 1.000 | | | |
| 公的サポート | -0.204 (0.073) | -0.040 (-0.199) | 0.175 (0.133) | 0.110 (0.153) | -0.063 (0.055) | -0.047 (0.368) | 1.000 | | |
| 積極性 | 0.409 (0.458) | 0.095 (0.318) | -0.101 (0.009) | 0.112 (0.453) | 0.171 (0.382) | -0.019 (0.287) | -0.118 (0.086) | 1.000 | |
| 自己満足度 | 0.125 (0.267) | 0.303 (0.380) | -0.030 (-0.094) | 0.176 (0.426) | 0.369 (0.365) | 0.077 (0.166) | -0.028 (0.071) | 0.139 (0.359) | 1.000 |

『日常生活動作能力（ADL）』を軸にみると、日韓共通のものとして『身体的健康』（ $r=0.267(0.312)$ ）、『積極性』（ $r=0.409(0.458)$ ）に正の相関

関係がみられ、『日常生活動作能力(ADL)』が高いほど身体が健康で、『積極性』も高い。韓国の場合、『家族関係』($r=0.377$),『精神的支え』($r=0.370$),『自己満足度』($r=0.267$)にも相関関係がみられた。『日常生活動作能力(ADL)』の高さと『精神的支え』の充実が『自己満足度』を高くし、『家族関係』の親密さが『精神的支え』を支えている。

『身体的健康』を軸にみると、日韓共通のものとして『自己満足度』($r=0.303(0.380)$)と相関関係がみられ、健康な人ほど、『自己満足度』も高かった。韓国の場合、健康な人ほど、『積極性』($r=0.318$)も高くなっている。

『家族関係』を軸にみると、日韓共通のものとして『精神的支え』($r=0.266(0.502)$)と相関関係が見られ、『家族関係』が親密なほど『精神的支え』が充実していた。韓国の場合、『道具的サポート』($r=0.246$),『積極性』($r=0.453$),『自己満足度』($r=0.426$)との相関関係もみられた。つまり、『家族関係』が親密なほど、『道具的サポート』を利用する意識が高く、また積極的に何かをしようとする意思がある。精神的にも安定し『自己満足度』も高くなっている。日本に比べて『家族関係』の親密度が高齢者の生活に及ぼす影響が強いことが推測される。

『精神的支え』を軸にみても、日韓共通のものとして『自己満足度』($r=0.369(0.365)$)との相関関係がみられ、『精神的支え』が充実しているほど、『自己満足度』も高かった。韓国の場合、『道具的サポート』($r=0.240$),『積極性』($r=0.382$)との相関関係がみられ、『精神的支え』が充実しているほど、『道具的サポート』を利用する意思があり、積極的に何かをしようとする意識が高かった。

『道具的サポート』を軸にみると、韓国の場合『公的サポート』($r=0.368$)と『積極性』($r=0.287$)に相関がみられた。補助器具など、道具的サポートを利用しようとする意識が高い人ほど公的サービスも利用してみようとする意識がある。また積極性が高い人ほど、補助器具等を使ってみようとする意識が高いともいえる。

『積極性』を軸にみると、韓国の場合『自己満足度』($r=0.359$)と相関がみられ、積極的な人ほど自己満足度が高いことを示している。

これらをまとめると、ある一つの要因がある一つの要因が支えているというわけではなく、各要因が互いに複雑に関係し合いながら高齢者の生活意識を構成している。その中でも、『日常生活動作能力 (ADL)』、『積極性』、『精神的支え』が複数の要因と重なり合っている。『ADL』と『精神的支え』が高齢者の積極性を生み出し、『自己満足度』に影響を与えている。一般的に加齢と共に ADL、身体的健康度の低下は避けられないものであるとしても、『精神的支え』の充実は、家族関係や周囲の環境に大きく左右されるといえる。

VI. まとめと今後の課題

日本と韓国には文化的・社会的、経済的な環境の違いがあるため、単純な比較は多少無理があるかもしれないが、高齢者の『自己満足度』を支えている『積極性』の高さと『精神的支え』の充実度は日韓共に家族関係、地域環境が大きく影響していることが、今回の調査からも確認することができた。

本調査は前回調査 (2000年) から 7 年後、前回と同じ質問項目で調査を行ったが、韓国の場合、年金受給者の増加、高齢者福祉の整備等にもなって家族扶助の意識から公的扶助を利用する意識へと変わりつつあることが見られた。

韓国では1988年にスタートした国民年金の満額受給者が2008年から現れ始める (但し国民皆年金が実現されたのは1999年) とともに、日本の介護保険制度に似た老人長期療養保険も施行される。それにもなって高齢者の意識はどのように変わっていくのか、そして地方自治体における市町村合併 (韓国でも2009年度から一部モデル的に実施される) と行政の広域化を経験した日本の地域における高齢者の意識はどのように変わっていくのか、今後も継続して経過をみていく必要がある。

参 考 文 献

- 日隈健壬・辰己佳寿子, 2007, 『高齢化社会と地域福祉—広域合併後の高齢者の意識変容—』 広島修大論集
- 霊岩郡, 2007年2月 『東北ア経済・観光の中核—民選4期によって変化した施策を中心として—』
- , 2007, 『第46回霊岩郡統計年報』
- 金子勇, 2006, 『社会調査から見た少子高齢社会』 ミネルヴァ書房
- 趙成南/館野哲 訳, 2006, 『現代韓国社会を知るためのハンドブック』 明石書店
- 広田ともよ, 2003, 『高齢化社会と地域福祉 (11)—高齢者生活意識の主成分分析—』 広島修大論集第43巻第2号.
- , 2002, 『高齢化社会と地域福祉 (6)—日韓高齢者福祉政策比較と意識調査—』 広島修大論集第42巻第2号.
- 森川千鶴子・日隈健壬, 2003, 『高齢化社会と地域福祉 (10)—高齢者の家族形態と慢性疾患・日韓比較—』 広島修大論集第43巻第2号.
- , 2002, 『高齢化社会と地域福祉 (8)—活動性に影響を与える慢性疾患の日韓比較—』 広島修大論集第42巻第2号.
- 日隈健壬・宮本晋一・広田ともよ, 2003, 『加齢に生きる人たち—自立・安定そして生きがい日韓比較調査研究—』 広島修道大学総合研究所.
- 日隈健壬他, 2000, 『高齢化社会と地域福祉 (1)—日韓の地方自治体における比較研究序説—』 広島修大論集第40巻第2号.
- 霊岩郡統計年鑑 2007.

■資料 日韓高齢者生活意識比較調査—単純集計結果—

(1) 基本的属性 単位：人 (%)

1. 年齢・性別

| | 日 本 | | | 韓 国 | | |
|--------|-------------|-------------|--------------|------------|------------|--------------|
| | 男性 | 女性 | 合計 | 男性 | 女性 | 合計 |
| 65-69歳 | 27 (8.2%) | 22 (6.7%) | 49 (14.9%) | 13 (12.9%) | 9 (8.9%) | 22 (21.8%) |
| 70-74歳 | 49 (14.9%) | 39 (11.9%) | 88 (26.8%) | 20 (19.8%) | 11 (10.9%) | 31 (30.7%) |
| 75-79歳 | 38 (11.6%) | 46 (14.0%) | 84 (25.6%) | 11 (10.9%) | 13 (12.9%) | 24 (23.8%) |
| 80-84歳 | 27 (8.2%) | 38 (11.6%) | 65 (19.8%) | 4 (4.0%) | 13 (12.9%) | 17 (16.8%) |
| 85-89歳 | 11 (3.4%) | 20 (6.1%) | 31 (9.5%) | 2 (2.0%) | 4 (4.0%) | 6 (5.9%) |
| 90-94歳 | 2 (0.6%) | 7 (2.1%) | 9 (2.7%) | 1 (1.0%) | 0 (0.0%) | 1 (1.0%) |
| 無回答 | 1 (0.3%) | 1 (0.3%) | 2 (0.6%) | — (—) | — (—) | — (—) |
| 合 計 | 155 (47.3%) | 132 (40.2%) | 328 (100.0%) | 51 (50.5%) | 50 (49.5%) | 101 (100.0%) |
| 平均年齢 | 75.5歳 | 77.3歳 | 76.4歳 | 73.2歳 | 75.8歳 | 74.5歳 |
| 最少年齢 | 65歳 | 65歳 | 65歳 | 65歳 | 65歳 | 65歳 |
| 最高年齢 | 92歳 | 93歳 | 93歳 | 91歳 | 89歳 | 91歳 |

2. 世帯構成

| | 日 本 | 韓 国 |
|--------|--------------|--------------|
| ひとり暮らし | 60 (18.3%) | 24 (23.8%) |
| 夫婦のみ | 117 (35.7%) | 59 (58.4%) |
| 同居世帯 | 132 (40.2%) | 17 (16.8%) |
| その他 | 15 (4.6%) | — (—) |
| 無回答 | 4 (1.2%) | 1 (1.0%) |
| 合 計 | 328 (100.0%) | 101 (100.0%) |

(2) 日常生活動作

1. 日用品の買い物

| | 日 本 | 韓 国 |
|----------|--------------|--------------|
| よくできる | 139 (42.4%) | 34 (33.7%) |
| できる | 132 (40.2%) | 47 (46.5%) |
| できない時がある | 20 (6.1%) | 8 (7.9%) |
| できない時が多い | 20 (6.1%) | 6 (5.9%) |
| 全くできない | 15 (4.6%) | 6 (5.9%) |
| 無回答 | 2 (0.6%) | 0 (0.0%) |
| 合 計 | 328 (100.0%) | 101 (100.0%) |

2. バスなどの公共交通

| | 日 本 | 韓 国 |
|----------|--------------|--------------|
| よくできる | 113 (34.5%) | 52 (51.5%) |
| できる | 147 (44.8%) | 27 (26.7%) |
| できない時がある | 20 (6.1%) | 4 (4.0%) |
| できない時が多い | 17 (5.2%) | 8 (7.9%) |
| 全くできない | 22 (6.7%) | 10 (9.9%) |
| 無回答 | 9 (2.7%) | 0 (0.0%) |
| 合 計 | 328 (100.0%) | 101 (100.0%) |

3. 郵便局等での用事

| | 日 本 | 韓 国 |
|----------|--------------|--------------|
| よくできる | 122 (37.2%) | 45 (44.6%) |
| できる | 163 (49.7%) | 38 (37.6%) |
| できない時がある | 14 (4.3%) | 8 (7.9%) |
| できない時が多い | 15 (4.6%) | 3 (3.0%) |
| 全くできない | 13 (4.0%) | 5 (5.0%) |
| 無回答 | 1 (0.3%) | 2 (2.0%) |
| 合 計 | 328 (100.0%) | 101 (100.0%) |

4. 介護力

| | 日 本 | 韓 国 |
|----------|--------------|--------------|
| よくできる | 23 (7.0%) | 14 (13.9%) |
| できる | 143 (43.6%) | 43 (42.6%) |
| できない時がある | 68 (20.7%) | 8 (7.9%) |
| できない時が多い | 47 (14.3%) | 12 (11.9%) |
| 全くできない | 38 (11.6%) | 23 (22.8%) |
| 無回答 | 9 (2.7%) | 1 (1.0%) |
| 合 計 | 328 (100.0%) | 101 (100.0%) |

高崎・日隈：高齢化社会と地域福祉 (13)

(3) 身体的健康度

1. 主観的健康感

| | 日 本 | 韓 国 |
|----------------------------|--------------|--------------|
| 健康であると思う | 97 (29.6%) | 24 (23.8%) |
| 日常生活に支障はないが、 気になるところがある | 173 (52.7%) | 34 (33.7%) |
| 健康でない (日常生活に支障がある) | 50 (15.2%) | 43 (42.6%) |
| 無回答 | 8 (2.4%) | 0 (0.0%) |
| 合 計 | 328 (100.0%) | 101 (100.0%) |

2-1. 自覚症状 (複数回答)

| | 日 本 | 韓 国 |
|----------|--------------|--------------|
| 疲れやすい | 90 (27.4%) | 30 (29.7%) |
| 背中や腰が痛い | 112 (34.1%) | 54 (53.5%) |
| ひざが痛い | 128 (39.0%) | 55 (54.5%) |
| 手足がしびれる | 26 (7.9%) | 32 (31.7%) |
| 頭が重い | 26 (7.9%) | 19 (18.8%) |
| 胃がもたれる | 21 (6.4%) | 22 (21.8%) |
| 動悸・息切れ | 20 (6.1%) | 19 (18.8%) |
| せき・たん | 18 (5.5%) | 17 (16.8%) |
| 高血圧 | 70 (21.3%) | 26 (25.7%) |
| 目がかすむ | 39 (11.9%) | 69 (68.3%) |
| 耳が聞こえにくい | 65 (19.8%) | 33 (32.7%) |
| 特にない | 23 (7.0%) | 3 (3.0%) |
| その他 | 24 (7.3%) | 7 (6.9%) |
| 合 計 | 662 (201.8%) | 386 (382.2%) |

n = 328

n = 101

2-2. 自覚症状の個数

| | 日 本 | 韓 国 |
|-----|--------------|--------------|
| 0個 | 23 (7.4%) | 3 (3.0%) |
| 1個 | 113 (36.2%) | 21 (20.8%) |
| 2個 | 85 (27.2%) | 18 (17.8%) |
| 3個 | 40 (12.8%) | 12 (11.9%) |
| 4個 | 30 (9.6%) | 12 (11.9%) |
| 5個 | 12 (3.8%) | 16 (15.8%) |
| 6個 | 7 (2.2%) | 10 (9.9%) |
| 7個 | 1 (0.3%) | 3 (3.0%) |
| 8個 | 0 (0.0%) | 2 (2.0%) |
| 9個 | 1 (0.3%) | 2 (2.0%) |
| 10個 | 0 (0.0%) | 2 (2.0%) |
| 11個 | 0 (0.0%) | — (—) |
| 無回答 | 16 (5.1%) | — (—) |
| 合 計 | 328 (105.1%) | 101 (100.0%) |

3. 歯の状態

| | 日 本 | 韓 国 |
|----------|--------------|--------------|
| すごく悪い | 36 (11.0%) | 50 (49.5%) |
| やや悪い | 72 (22.0%) | 34 (33.7%) |
| 少し気になる程度 | 66 (20.1%) | 7 (6.9%) |
| あまり問題ない | 102 (31.1%) | 7 (6.9%) |
| 全く問題ない | 35 (10.7%) | 3 (3.0%) |
| 無回答 | 17 (5.2%) | 0 (0.0%) |
| 合 計 | 328 (100.0%) | 101 (100.0%) |

4. 病院へ行く回数

| | 日 本 | 韓 国 |
|----------|--------------|--------------|
| ほぼ毎日 | 9 (2.7%) | 6 (5.9%) |
| 週に1回 | 23 (7.0%) | 29 (28.7%) |
| 月に数回程度 | 163 (49.7%) | 44 (43.6%) |
| 年に数回程度 | 71 (21.6%) | 6 (5.9%) |
| ほとんど行かない | 43 (13.1%) | 15 (14.9%) |
| 無回答 | 19 (5.8%) | 1 (1.0%) |
| 合 計 | 328 (100.0%) | 101 (100.0%) |

5. 服薬量

| | 日本 | 韓国 |
|-----------|--------------|--------------|
| 毎日2種類以上飲む | 146 (44.5%) | 40 (39.6%) |
| 毎日1種類飲む | 69 (21.0%) | 30 (29.7%) |
| ときどき飲む程度 | 29 (8.8%) | 16 (15.8%) |
| あまり飲まない | 42 (12.8%) | 4 (4.0%) |
| 飲まない | 33 (10.1%) | 10 (9.9%) |
| 無回答 | 9 (2.7%) | 1 (1.0%) |
| 合計 | 328 (100.0%) | 101 (100.0%) |

(4) 普段の生活行動

1. 運動量

| | 日本 | 韓国 |
|-----------|--------------|--------------|
| 毎日必ずする | 94 (28.7%) | 41 (40.6%) |
| 2日に1回程度する | 26 (7.9%) | 8 (7.9%) |
| ときどきする程度 | 99 (30.2%) | 21 (20.8%) |
| ほとんどしていない | 54 (16.5%) | 15 (14.9%) |
| 全くしない | 38 (11.6%) | 16 (15.8%) |
| 無回答 | 17 (5.2%) | 0 (0.0%) |
| 合計 | 328 (100.0%) | 101 (100.0%) |

2. 目標をたててやっていること

| | 日本 | 韓国 |
|-------|--------------|--------------|
| すごくある | 37 (11.3%) | 2 (2.0%) |
| ややある | 55 (16.8%) | 6 (5.9%) |
| 少しある | 88 (26.8%) | 33 (32.7%) |
| あまりない | 92 (28.0%) | 30 (29.7%) |
| 全くない | 37 (11.3%) | 30 (29.7%) |
| 無回答 | 19 (5.8%) | 0 (0.0%) |
| 合計 | 328 (100.0%) | 101 (100.0%) |

3. 新聞

| | 日本 | 韓国 |
|-----------|--------------|--------------|
| 毎日必ず読む | 190 (57.9%) | 8 (7.9%) |
| 2日に1回程度読む | 9 (2.7%) | 2 (2.0%) |
| ときどき読む | 51 (15.5%) | 18 (17.8%) |
| ほとんど読まない | 26 (7.9%) | 13 (12.9%) |
| 全く読まない | 38 (11.6%) | 59 (58.4%) |
| 無回答 | 14 (4.3%) | 1 (1.0%) |
| 合計 | 328 (100.0%) | 101 (100.0%) |

(5) 経済的状况

1. 年金

| | 日本 | 韓国 |
|---------|--------------|--------------|
| もらっている | 326 (99.4%) | 49 (48.5%) |
| もらっていない | — (—) | 50 (49.5%) |
| 無回答 | 2 (0.6%) | 2 (2.0%) |
| 合計 | 328 (100.0%) | 101 (100.0%) |

2. 子供からの経済的サポート

| | 日本 | 韓国 |
|---------|--------------|--------------|
| もらっている | 81 (24.7%) | 61 (60.4%) |
| もらっていない | 228 (69.5%) | 39 (38.6%) |
| 無回答 | 19 (5.8%) | 1 (1.0%) |
| 合計 | 328 (100.0%) | 101 (100.0%) |

高崎・日隈：高齢化社会と地域福祉(13)

(6) 道具的サポート

1. 車椅子への抵抗感

| | 日本 | 韓国 |
|--------|--------------|--------------|
| すごくある | 29 (8.8%) | 29 (28.7%) |
| ややある | 45 (13.7%) | 33 (32.7%) |
| 少しだけある | 46 (14.0%) | 5 (5.0%) |
| あまりない | 102 (31.1%) | 8 (7.9%) |
| 全くない | 66 (20.1%) | 24 (23.8%) |
| 無回答 | 40 (12.2%) | 2 (2.0%) |
| 合計 | 328 (100.0%) | 101 (100.0%) |

2. 新しい家電製品の操作で困ったこと

| | 日本 | 韓国 |
|--------|--------------|--------------|
| すごくある | 46 (14.0%) | 28 (27.7%) |
| ややある | 68 (20.7%) | 26 (25.7%) |
| 少しだけある | 91 (27.7%) | 22 (21.8%) |
| あまりない | 82 (25.0%) | 14 (13.9%) |
| 全くない | 25 (7.6%) | 11 (10.9%) |
| 無回答 | 16 (4.9%) | 0 (0.0%) |
| 合計 | 328 (100.0%) | 101 (100.0%) |

3. バリアフリー

| | 日本 | 韓国 |
|-----------|--------------|--------------|
| すでに行っている | 84 (25.6%) | 29 (28.7%) |
| 今後する予定がある | 21 (6.4%) | 15 (14.9%) |
| したい | 75 (22.9%) | 25 (24.8%) |
| あまり考えていない | 104 (31.7%) | 25 (24.8%) |
| 全く考えていない | 31 (9.5%) | 7 (6.9%) |
| 無回答 | 13 (4.0%) | 0 (0.0%) |
| 合計 | 328 (100.0%) | 101 (100.0%) |

(7) 家族のサポート

1. 子供や孫が訪ねてきてくれる

| | 日本 | 韓国 |
|-------|--------------|--------------|
| よく | 154 (47.0%) | 29 (28.7%) |
| やや | 58 (17.7%) | 14 (13.9%) |
| 少しだけ | 68 (20.7%) | 41 (40.6%) |
| あまりない | 28 (8.5%) | 15 (14.9%) |
| 全くない | 8 (2.4%) | 1 (1.0%) |
| 無回答 | 12 (3.7%) | 1 (1.0%) |
| 合計 | 328 (100.0%) | 101 (100.0%) |

2. 入院時面会に来てくれると思う

| | 日本 | 韓国 |
|-------|--------------|--------------|
| よく | 169 (51.5%) | 33 (32.7%) |
| やや | 72 (22.0%) | 24 (23.8%) |
| 少しだけ | 62 (18.9%) | 32 (31.7%) |
| あまりない | 13 (4.0%) | 7 (6.9%) |
| 全くない | 2 (0.6%) | 3 (3.0%) |
| 無回答 | 10 (3.0%) | 2 (2.0%) |
| 合計 | 328 (100.0%) | 101 (100.0%) |

3. 家族との会話の程度

| | 日本 | 韓国 |
|-------|--------------|--------------|
| よく | 108 (32.9%) | 33 (32.7%) |
| やや | 92 (28.0%) | 10 (9.9%) |
| 少しだけ | 74 (22.6%) | 38 (37.6%) |
| あまりない | 36 (11.0%) | 14 (13.9%) |
| 全くない | 6 (1.8%) | 5 (5.0%) |
| 無回答 | 12 (3.7%) | 1 (1.0%) |
| 合計 | 328 (100.0%) | 101 (100.0%) |

4. 親族の悩みごと

| | 日本 | 韓国 |
|-------|--------------|--------------|
| 多い | 27 (8.2%) | 8 (7.9%) |
| ある | 34 (10.4%) | 28 (27.7%) |
| ややある | 92 (28.0%) | 26 (25.7%) |
| あまりない | 115 (35.1%) | 27 (26.7%) |
| 全くない | 50 (15.2%) | 12 (11.9%) |
| 無回答 | 10 (3.0%) | 0 (0.0%) |
| 合計 | 328 (100.0%) | 101 (100.0%) |

(8) 精神的支え

1. 自分の安否を常に気遣ってくれる人がいる 2. 悩みを打ち明けたり相談できる人がいる

| | 日 本 | 韓 国 |
|------|--------------|--------------|
| い る | 295 (89.9%) | 90 (89.1%) |
| い ない | 19 (5.8%) | 6 (5.9%) |
| 無回答 | 14 (4.3%) | 5 (5.0%) |
| 合 計 | 328 (100.0%) | 101 (100.0%) |

| | 日 本 | 韓 国 |
|------|--------------|--------------|
| い る | 269 (82.0%) | 81 (80.2%) |
| い ない | 46 (14.0%) | 19 (17.8%) |
| 無回答 | 13 (4.0%) | 1 (1.0%) |
| 合 計 | 328 (100.0%) | 101 (100.0%) |

(9) 高齢者モラル

1. 自分に介護が必要になったとき 2. 配偶者に介護が必要になったとき

| | 日 本 | 韓 国 |
|------------------|--------------|--------------|
| 子どもと同居する | 87 (26.5%) | 28 (27.7%) |
| 同居ではないが子どもが世話をする | 66 (20.1%) | 31 (30.7%) |
| 自宅でヘルパーが世話を | 41 (12.5%) | 5 (5.0%) |
| 施設に入る | 90 (27.4%) | 30 (29.7%) |
| その他 | 23 (7.0%) | 6 (5.9%) |
| 無回答 | 21 (6.4%) | 1 (1.0%) |
| 合 計 | 328 (100.0%) | 101 (100.0%) |

| | 日 本 | 韓 国 |
|---------|--------------|--------------|
| 絶対入れない | 18 (5.5%) | 12 (11.9%) |
| 多分入れない | 86 (26.2%) | 20 (19.8%) |
| どちらでもよい | 92 (28.0%) | 31 (30.7%) |
| 多分入れる | 71 (21.6%) | 19 (18.8%) |
| 絶対入れる | 13 (4.0%) | 13 (12.9%) |
| 無回答 | 48 (14.6%) | 6 (5.9%) |
| 合 計 | 328 (100.0%) | 101 (100.0%) |

3-1. 延命治療の中止希望

3-2. 延命治療に関する家族との話し合い

| | 日 本 | 韓 国 |
|-----------------|--------------|--------------|
| 口から食べられなくなったとき | 20 (6.1%) | 11 (10.9%) |
| 治る見込みがないとわかったとき | 82 (25.0%) | 32 (31.7%) |
| 寝たきりになったとき | 17 (5.2%) | 30 (29.7%) |
| 痴呆になったとき | — (—) | — (—) |
| 意識不明になったとき | 133 (40.5%) | 19 (18.8%) |
| その他 | 51 (15.5%) | 6 (5.9%) |
| 無回答 | 25 (7.6%) | 3 (3.0%) |
| 合 計 | 328 (100.0%) | 101 (100.0%) |

| | 日 本 | 韓 国 |
|----------------|--------------|--------------|
| ある | 69 (21.0%) | 10 (9.9%) |
| まだないが今後したい | 114 (34.8%) | 25 (24.8%) |
| ない (今後もしないと思う) | 131 (39.9%) | 63 (62.4%) |
| 無回答 | 14 (4.3%) | 3 (3.0%) |
| 合 計 | 328 (100.0%) | 101 (100.0%) |

(10) 生活満足度

1. 今の自分に不満・不安がありますか。

| | 日 本 | 韓 国 |
|-------|--------------|--------------|
| すごくある | 18 (5.5%) | 4 (4.0%) |
| ややある | 54 (16.5%) | 11 (10.9%) |
| 少しある | 102 (31.1%) | 37 (36.6%) |
| あまりない | 97 (29.6%) | 27 (26.7%) |
| 全くない | 44 (13.4%) | 22 (21.8%) |
| 無回答 | 13 (4.0%) | 0 (0.0%) |
| 合 計 | 328 (100.0%) | 101 (100.0%) |

Summary

高 齢 化 社 会 と 地 域 福 祉 (13)

——日韓高齢者生活意識比較調査2007——

高崎 義幸・日隈 健一

고령화사회를 넘어 고령사회의 도래를 맞이하여, 고령자가 비록 신체적 기능이나 능력은 쇠퇴하더라도 자립, 안정된 건강한 생활을 보내는 것은, 고령자 자신의 바램임과 동시에, 사회의 바램이기도 하다. 급속한 고령화율의 상승은 고령자 의료·복지등에 소요되는 비용을 증가시켜, 국가나 지방자치단체의 재정을 압박하게 되기 때문이다. 또한, 고령이 될수록 건강 상태, 가족 관계, 소득 등의 개인차가 커지기 때문에, 고령자를 정형적으로 바라볼 것이 아니라, 고령자 개개인의 실태에 적합한 관점이 필요하다.

본조사 연구는, 1999년부터 계속적으로 실시해오고 있는 「고령화 사회와 지역 복지의 한일 비교 조사 연구」의 2007년도 조사이다. 연구의 관점은 고령자가 「와병생활」 등이 아닌 「자립」 적이고 건강한 생활을 보낼 수 있는 「건강 수명」에 초점을 맞추어 이것을 지지하는 사회적 활동이나 삶의 보람 등 생활 안정도를 검증하기 위한 요소의 발견을 목적으로 하고 있다.

조사는 65세 이상 고령자를 대상으로 일본 히로시마현 야마가타군 키타히로시마정 게이호쿠와 한국 전라남도영암군에서 설문조사를 실시하였다. 분석 지표로서①기본적 속성② ADL ③신체적 건강도④경제적 상황⑤가족 관계⑥심리적 지지⑦도구적 지원⑧공적 지원⑨적극성⑩자기만족도를 설정하여 분석했다. 그 결과, 한일에 공통되는 것으로서 나이가 들수록 신체적 기능·건강의 저하가 나타나는점, 고령자의 자기만족도는 「적극성」의 정도와 「심리적 지지」의 충실도와 깊은 관계가 있다는 점, 또 그것들에는

가족 관계와 지역 생활 환경이 고령자의 의식에 큰 영향을 주고 있는 것을 확인할 수 있었다.

그 외에, 사회 보장 연금 제도가 거의 완비되어 있는 일본과 정비 단계에 있는 한국과는, 「가족 관계」에 있어서의 의식의 차이가 나타났지만, 한국도 지난번 조사(7년전)와 비교해서 사회 보장 제도의 정비등에 따라서 점차 가족부양 의식으로부터 공적 부조 이용 의식으로 전환되고 있다라는 경향을 볼 수 있었다.